

友松会だより

平成 28 年度 横浜国大 HCD 報告号

発行責任者 会長 芦川 弘

平成 28 年 11 月 3 日 発行

第 11 回 横浜国立大学ホームカミングデー

平成 28 年 10 月 29 日(土) 10:00~16:00

会場 横浜国立大学常盤台キャンパス

校友会主催で大学祭と同日開催となって二回目のホームカミングデーが、学生、卒業生、保護者、地域の人々など、多数の参加により盛大に行われました。学生による模擬店、広場でのダンスや演奏でにぎわい、コンテスト、企画展に人だかりができ、交流会も盛会でした。友松会主催の「教育を考える会」も、70 余名の参加があり、学生、保護者の姿も見られました。

◇ メイン講演

演題 「先端科学高等研究院の紹介」

講師 副高等研究院長 三宅敦巳氏

主任 研究者 藤野陽三氏

主任 研究者 光島重徳氏

共同 研究者 吉岡克成氏

主任 研究者 藤掛洋子氏

本学の研究院には 11 のユニットが設けられ、それぞれの分野で研究を進めている。安心・安全な未来を実現するため、「リスク共生学」という新しい理念に基づいた学際科学の場である。

「社会インフラストラクチャーの安全」を研究しているユニットでは、「橋」を地域のランドマーク、



例 聖橋 1929 年

記憶の reference(参照証明書)としてとらえ、構造工学・地震工学・自動車工学・交通工学を連携させた横断的な研究をしている。

◇メインイベント

ジョイントコンサート

オペラ歌手の笛田博昭氏と、本学グリークラブ学生・OB とのジョイントコンサートが行われた。



コンサートの様子

◇ 第 23 回 豊かな教育を考える会

第一部 「豊かな教育を語る会」研究発表

＜芦川会長あいさつ＞

大学の先生、卒業生、学生の皆さんに多数ご参加いただきありがとうございます。昨年より「教育を考える会」として一部・二部をトータルとしました。

第一部「教育を語る会」は伝統的なもので、同窓会として、松沢研究奨励賞受賞者から優れた実践を提案していただいています。皆さんで教育について考えていただけたらと計画しました。校友会の設立に伴い、昨年からは学生の皆さんにも会費を納めていただき、会員になってもらっています。

第二部は、友松会に関わって優れた社会人になってほしいとの目的で、昨年からは始めました。将来どのような社会人になるか考えてもらう良い機会になればと思います。OB の皆さんもサジェッションしてください。第二部は、大学と友松会が一体となって企画したものです。

☆ 研 究 討 議 ☆

研究発表者 松沢研究奨励賞受賞者 2名
研究協議 司会 福島 紘 氏(S39年卒)
指導講評

横浜国立大学教育人間科学部

松葉口 玲子 教授(生活科教育講座)

但 馬 文昭 教授(技術科教育講座)



研究会の様子

【研究発表】

「学んだことを生かして、

自ら考え行動する子を目指して」

横須賀市立大楠小学校 岩澤 進 総括教諭(H4卒)

地域の教材や人材を発掘・組織化し、地域教育力として学習活動に取り入れた授業実践を10年間続けている。地域の「人・もの・こと」と豊かに関わり学んできた子どもたちには、地域への強い愛着、環境に感謝する心が育っている。児童と地域の方との交流では、学校が地域に信頼されていることを感じ、これまでの取り組みは間違っていなかったと強く思う。

「技術・家庭科において、

学力の3要素をバランスよく育む

問題解決的な学習の工夫・改善」

厚木市立荻野中学校 尾崎 誠 教諭

(H10卒・H17大学院修了)

「子どもたちにもっと技術を好きになってもらいたい」との想いで進めてきた研究である。「問題解決的な学習」とサンドイッチ型の授業づくりによる指導の工夫・改善を図り、技術・家庭科における3要素を育む指導に取り組んでいる。特に、「生活を工夫し創造する能力」の育成を重視し、問題解決的な指導や評価方法の工夫・改善に効果を上げている。

第二部 パネルディスカッション

テーマ “私の進路はこうして決めた”

～卒業生、在校生の立場から～

コーディネーター

国大教育人間科学部長 杉山 久仁子 教授

パネラー

新人教諭 宮治 有斗さん(H26卒)

企業関係 森原 早苗さん(H23卒)

学校教育課程 安達 陽介さん(4年)

人間文化課程 八木 茉莉香さん(4年)

司会 門井 富士夫(友松会副会長)



杉山教授とパネラー

「進路を決めるきっかけ」、「大学でのどんな経験が、今生かされているか」等を話題とし、自分一人でなんとかしようともがかないで人と人のつながりを作ることを、いろいろな授業の中で学んでいくことが大切ではないかとまとめられた。